

仏歴 2567 (令和6) 年



光明遍照
十方世界
念仏衆生
攝取不捨

光善寺通信 第1110号

新年号

発行人：柳川信行
発行日：2024、01、01
106-0046
港区元麻布1-7-4
浄土真宗本願寺派
光善寺
03-3451-3372
光善寺ホームページ



1月の予定

9日～16日
宗祖親鸞聖人ご命日
法要(ご正忌報恩講)
(京都ご本山)
去年に引き続き、
YouTubeの西本願
寺チャンネルでライブ
配信される予定です。

「新年会」

1月31日(水)
観劇会&会食

2月の予定

「定例布教」

今年度から法座を
再開します。初年度
は釈眞諦(坊守)が
毎月、やさしい法話
をお届けします。
2月はお休みです。

光善寺の門信徒の皆様は、お健やかに新年をお迎えの事と存じます。

新しい家族をお迎えになられた方、また、新しい方を見送られた方など、人生には様々な物語がありますが、その一つひとつが「生きる」という事なのだとお釈迦様は教えて下さいます。誰にも代わる事のできない「いのち」を生きているからこそ、共に仏法を聴聞して生死の問題を解決し、今を安心して生きていきたいものです。

さて、今年には宗祖親鸞聖人が浄土真宗の根本聖典「**願浄土真実教行証文類(教行信証)**」の草稿本を完成(1224年)されてから800年に当たります。この年号をもって「**浄土真宗**」という宗派の立教開宗とするという事は前回もお話致しましたが、そもそも、浄土真宗とは「**浄土往生への真実の教え**」という意味で、『**仏説無量寿経**』の事を指します。それは、師匠である法然聖人から教化された「**称名念仏一つ**」で善人も悪人も平等に救われていくという阿彌陀如来の平等の慈悲による救済が説かれているお経です。法然聖人は「**南無阿彌陀仏**」と称えるという行こそが、煩惱を自ら断ち切る事のできない凡夫の為に、阿彌陀如来ご自身が、あらゆる行の中から他を選び棄て、選び取った「**選択本願**」であると『**選択本願念仏集**』に著されました。その行は「**大行**」と呼ばれ、如来が衆生に**念仏を称えさせる**という行なのです。衆生の側で用意するものではありません。



その願いが成就したハタラクギが「**他力本願**」です。この私に念仏をさせて、信心を恵み、命終と同時に往生即成仏させるハタラクギの事です。これを「**不向の行**」といいます。つまり、私が称えるという行為は私の成仏に関して何の功德にもならないという事です。称えさせられている名号「**南無阿彌陀仏**」に阿彌陀如来の全ての徳が備わっているのです。阿彌陀如来の利他力だからこそ、あらゆる「いのち」が必ず救われていくのです。

宗祖は当時、350人程いたお弟子の中で、この法然聖人の『**選択集**』の書写を許された数少ないお弟子の一人です。親鸞聖人は最後まで法然聖人の弟子の一人であり、浄土宗の僧侶でした。だからこそ、念仏弾圧の中で、無念のうちに命を終えていかれた師匠の恩徳に報いる為に、生涯をかけて他力念仏の教えが「**真実**」であることを明らかにされていかれたのです。

お弟子の唯円が親鸞聖人の常の言葉を書き残された『**歎異抄**』の第一条には、「**弥陀の誓願不思議に助けられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて、念仏申さんと思ひ立つ心の起るとき、即ち攝取不捨の利益にあづけしめたまふなり。**」と記されています。そして、「**弥陀の本願には、老少・善悪の人を選ばれず、ただ信心を要とするべし。その故は罪悪深重・煩惱熾盛の衆生を助けんが為の願にまします。**」ここで示される「**悪人**」とは、自らの力では「**貪り・怒り・愚痴**」の心から離れられない「**私**」の事であり、親鸞聖人ご自身の事として味あわれているのです。今年もお念仏と共に過ごして下さい。合掌